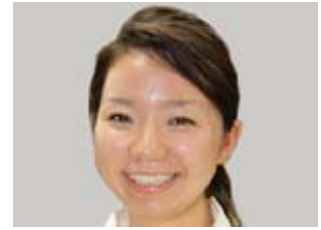


メインテーマ：歯科衛生士のためのマイクロスコープ ホップ・ステップ・ジャンプ

『【ジャンプ】ベテランとして』



鈴木歯科医院 前田 千絵

患者のハイジーンワークを任せてもらえるようになり、その楽しさを知るとともに肉眼で行う事による壁を感じ始めた歯科衛生士3年目。院長よりマイクロスコープを使ってみよう勧められた。

それからはや9年、毎日、全患者のハイジーンワークをマイクロスコープで見ながら行っている。

肉眼で行っていた頃は、チェアのライトが届きにくい部位や豊隆が強い歯の歯頸部遠心、歯肉縁下など見えなくて困った事が多かった。目で確認できない部位への作業やその確認は、自身の歯科知識や経験によるところが大きい。今より歯科衛生士歴が短かった当時は特に、自分の作業が実際に出来ているのかどうか分からず不安だった。

しかし、マイクロスコープを使うようになって、見たいと思っていた部位が見えるようになった。しかも拡大して見える。今まで見えずにいたために気づかなかった事に気づけるようになった。例えば歯石の取り残しや不良補綴物、初期う蝕。挙げればきりが無い程さまざまな場面で、その利用価値を実感している。

本講演ではルーティンで歯科衛生士もマイクロスコープを使う事の有効性について症例を挙げながら紹介していきたい。自身もマイクロスコープを使ってみたい、と思って頂ける歯科衛生士が一人でも多く現れる事を願っている。